C H I N A T O U R I S M

中國旅游

中国

世 界 遺 産

峨眉山と楽山大仏

峨眉山と楽山大仏
世界文化と自然遺産

峨眉山

「大光明山」とも呼ばれる中国の四大仏教総本山であり、四川省峨眉市の南西に位置する。峨眉山は、四川盆地と青海・チベット高原との中間地帯にあり、山の形が細長く、美人の眉ように延びているから名を取った。大峨、二峨、三峨、四峨4つの山からなる。普通、峨眉山をいうと、名所が集まり、峰が険しい大峨山を指す。峻険な峰々が続く、風光明媚の峨眉山は、麓から頂きまで四季おりおりの景色を呈しており、わずか数キロにもまちまちの気候がある。日の出、雲海、仏光、聖灯は広く知られている。山の雄大な気勢、種類豊かな植生、色濃い宗教色で中国四大仏教名山に数えられている。独特な地質構造、完成した生態系環境、絶滅に瀕する珍しい動植物を含む豊かな動植物資源を持っている。2千年以来、仏教色濃い文化遺産を数多く積み重ねた。峨眉山の自然と文化遺産は、歴史、美学、科学調査、観光などなどの分野において高い価値を擁する。

楽山大仏

楽山大仏は大きい石彫刻の弥勒仏の座像であり、唐の玄宗帝開元初年(713年)に、開鑿工事を始まった。資金、工匠を募集しながら、朝廷の税金による援助を受けて90年間を費やしてとうとう完工した。大仏は、峨眉山東に31キロ離れる楽山市東を流れる岷江、青衣江、大渡河の合流処、凌雲山西壁にある。高さ71mの大仏は、川に臨んで石の山を開鑿して出来た。頭は長さ14.7m、幅10mで、肩の幅は24m。耳は長さ7mで、耳穴には2人も立てる。幅8.5mの足の甲には、百人以上を納められ、世界では最も高い仏像である。従来、「仏様は山であり、山は仏様である」と称えられた。西の峨眉山に向かって、後ろ9つの峰を寄りかかり、足が3つの川の合流処を踏み入れる座像は、均整のとれた体型と端正な面影を持っている。楽山大仏開鑿の歴史的功績は、中国の仏教文化の隆盛を創り上げたばかりではなく、地元の住民に利をもたらした水利工事を築き上げたことにある。その水利工事は、3本の川の流れを調節し、船の難破事故を減らし、秦代の李氷が完成した「離堆」水利工事と同様な科学価値と歴史的意義を持っている。

1996年に、峨眉山と楽山大仏は『世界文化と自然遺産リスト』にランクされた。

金頂

海抜3077mで、峨眉山登りの終点。頂きに古い名が華蔵寺と

峨眉山万年寺

幽静な峨眉山清音閣

峨眉山洪椿坪

いう正殿がある。漢(紀元前206～紀元220)晋(265～420)時期に創建されたが、後に元相殿と改名、また「銅殿」とも呼ばれた。ぴかぴかする金メッキの屋根とゴールド混じりの銅合金造りの柱、門、窓から名を取った。金頂は、峨眉山の頂きとして、雲海、日の出、仏灯、仏光の四大奇観で名を轟かせている。うち、陽光の屈折による環状の光が最も名高い。

報国寺

峨眉山の山道にある一番目の寺だ。明の万暦年間(1573～1620)に創建され、清の順治年間に現在の場所建て替えた。清の康熙四十二年(1703)に、また再建を加え、しかも仏経の四恩の一つ「報国主恩」の意を取った勅命で、「報国寺」と改名された。後に、2回の拡大工事を経て、現在の4階立ての殿堂、東屋と楼閣が整備された規模雄大な寺院に築き上げたのだ。山門、弥勒殿、大雄殿、七仏殿、普賢殿、蔵経楼などの建物は、前後にして中軸線沿いに階段状に並べてある。大雄殿の真中には、釈迦仏を祭っており、両側に十八羅漢像が立っている。七仏殿には、中間の釈迦牟尼、両側の迦葉など、計7体の巨大な仏像を供養している。

万年寺

海抜1020mの駱駝嶺の麓に突き出た小山にあり、峨眉山六大古刹の筆頭である。晋の隆安年間(397～401)に、創建され、普賢寺と名付けられた。北宋時期、数回も建て直し、白水普賢寺と改名された。明の万暦年間、朱翊鈞帝が母親の古希を祝うために、ゴールドを賜り、梁無煉瓦造りの殿堂を建てさせ、しかも「聖寿万年寺」の金額も題辞した。こうして、万年寺と呼ばれてきた。梁無レンガ造りの殿堂、普賢銅像、仏牙が万年寺の三宝として名高い。

造型が美しい仏像

仙峰寺

仙峰岩の隣海抜1752mのところにあるため、名を取った。宋代に小さい寺だったが、明の万暦年間、本炯高僧によって拡大工事を行い、仙峰寺と改名した。後に、火事に見舞われ焼き払われた。現在の建物は、清の乾隆年間に、泰安高僧によって建て直されたのもである。寺前に、高い古木がうっそうとしており、後ろの長寿岩が聳え立っている。寺の周りに、枝が傘のように広げたモミとマツの木が生い茂っている。雄大な殿堂は、錫板と鉄瓦敷きの屋根が重ねられ、後ろには銅製の舎利塔がある。寺の外に、巨大な石「三峰石」があり、「南無阿弥普賢菩薩」と「仙圭」などの字が刻まれている。寺後ろの竹林には、古い洞窟があり、軒轅帝はかつてここで九皇仙人に会ったと伝えられたため、九老洞と呼ばれた。九老洞一帯に、珍しい植物デビディアは生い茂り、春末夏初になると、ハンカチのような花を咲き乱れる。

清音閣

臥雲寺とも呼ばれ、峨眉山牛心嶺の麓、黒白2本の河が合流するところにあり、報国寺から約15キロ離れている。唐の僖宗年間、慧通禅師に建てられた。寺に、釈迦牟尼仏、文殊菩薩、普賢菩薩の像を供養している。楼閣の下に、双飛亭があり、左右にそれぞれ鳥の翼のような橋があるため、名を取った。黒、白水が合流するところに巨大な石がある。高さ数メートルで、牛の心の形をしているから「牛心石」と呼ばれる。橋を流れ通す河水は、牛心石にぶつかり、白いしぶきを飛ばしながら、大きい響きを轟く。亭の下に、「万古清音」と題辞された明代の石碑がある。

洪椿坪

峨眉山の最もよい避暑地。宝掌峰の麓

の林にある。清音閣から上ると、99折3200階の階段を登れば、洪椿坪に着ける。そこに、洪椿寺が建てられており、寺前に3本チャンチンの木があるから、建て直された寺は、洪椿坪とも呼ばれた。チャンチンの木は500年を経てば開花し、また500年を経つと実ると伝えられる。洪椿寺には、蔵経楼に掛けられている宝物の七角千仏蓮灯を所蔵している。

日の出

早朝5、6時の金頂は、まだ朝靄に篭れ明けない。寒風が強く吹かれる狭い舎身岩は、ご来光を見る観光客で込み合う。人々は東方にじっと目詰めている。間もないうちに、天際に金色に縁取った黒い雲が現わした。徐々に、黒い雲は細長い隙間を裂き始め、浅い赤い色を露出する。暫くして、黒い雲は、紫色に変った。瞬く間に、裂き目はオレンジ色に変わりながら広げていく。続いて、赤い日は縁輪を覗かせてゆっくりと昇ってくる。当たりの雲はそれに従って、カラフルに変化しており、雲の隙間から一本一本の眩しい光を射している。その時、約四分の三を出た赤い日は、にわかに地平線を飛び出した。今の雲は極色彩を呈しており、黒い山は果てしない雲海に見え隠れしている。舎身岩には、ゴールデンのペールをかけられ、オレンジ色に彩られた雲海は特に美しい。

雲海

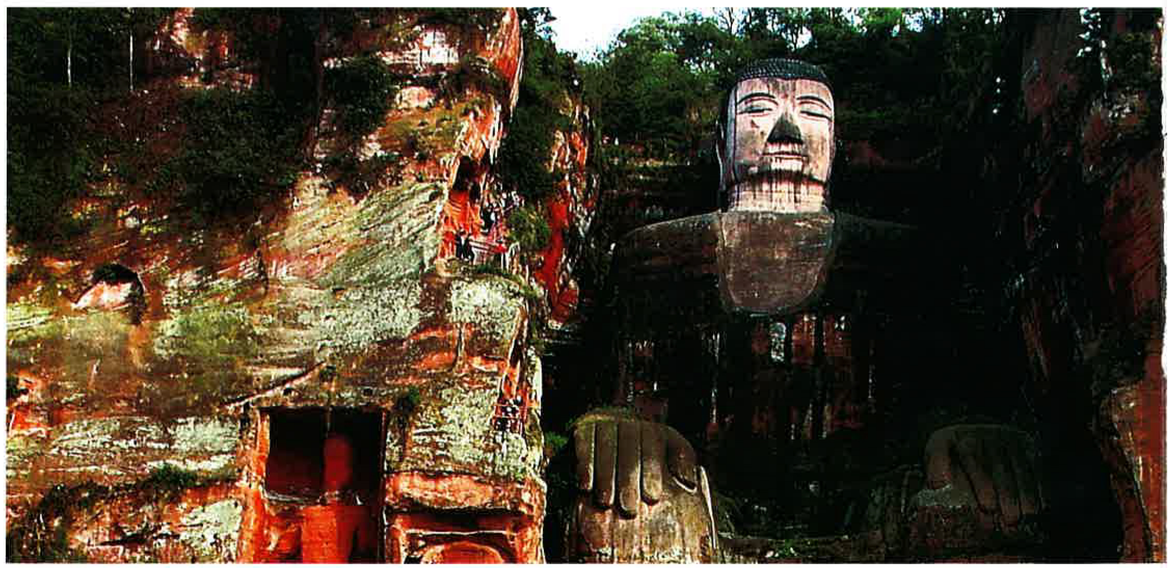
雲海は山の麓から、湿気を含める上昇気流によって積み重ねた、広々とした海のような厚い雲層だ。平らでふわふわする絨毯のような雲海もあれば、とうとうと逆巻く大波のような雲涛もある。時々、山のように積み重ねた雲峰を作り、時々丸い団状や中空状になる。まるで、変化に富む、壮観を極まる幻の世界のようだ。しかしながら、風を吹くと、逆巻く雲海はすばやく吹き飛ばされ、海に浮かぶ島のような山々は面影を露出する。自然の神業に人々は賛嘆せざるを得なくなる。

峨眉山雲海

仏光

風が止まり、赤い日が西に沈み始まる時、舎身岩に立てば、雲に浮かぶ虹のような光輪を見える。僧侶に「仏光」と呼ばれるが、古人は菩薩が姿を現わす「光相」と言われた。仏光は、一種の自然現象で、形や大小の差があるから、呼び名も多い。光輪に自己の姿が映されるのは、「撮身光」、雲がない時に現わしたのは「清現」、白色で暈しがないのは「水光」、箕のように大きいのは「辟支光」、シンバルのように小さいのは「童子光」、虹のように山に懸かるのは、「金橋」、極希に見る、早朝の金頂西側に現わすのは「反現」と呼ばれる。金頂には、毎年70回あまり仏光を見ることが出来る。科学界は、峨眉の仏光を「峨眉宝光」と名付け、世界の奇観とも言えよう。

山を掘り開いて彫刻した楽山大仏



聖灯

聖灯は、金頂の他に、洗象池にも見られる。雲がない晴日の深夜、点々とする光は、遠く山の麓から徐々に舎身岩に昇って行く。小さいから段々大きくなる光は、数少ないから多く集まり、星のように空に点在する。目の前に飛んで来たかと思うと、手を伸ばして届けない。リン火か蛍光か、燃焼できる気体か人家灯火の屈折かは、現在まで科学的定論がなく、人々を惑わされている。

聖積晩鐘

鳳凰堡大鐘亭にある。高さ2.3m、直径2m、重さ12.5トンの大鐘は、四川・成都地区の鐘の王様と称えられた。鐘には、6万1000字が刻まれており、峨眉山仏教歴史の研究において、貴重な資料である。夜になると、僧侶は念仏しながら鐘を108回撞く。人間の108種の煩悩を除ける意。透きとおる鐘声は、数キロに響き渡り、峨眉山の十大景色に数えられている。

千仏蓮灯

木製の灯は、高さ1.1m、直径70cm、洪椿坪寺にある。7角形を呈し、胴体に金色の龍を7匹飾っている。灯には、さまざまな形をする、精緻極める計500体の仏像が刻まれている。人々に驚嘆させるのは、仏像のほかに道教の像も描かれている。希に見る宗教法器である。民国初年に、重慶の職人が創ったものだ。年代はさほど古くないが、珍しい文物と言えよう。

仏教名山

普賢菩薩の道場である。1世紀頃、仏教は峨眉山に伝来したと伝われている。2000年に近い仏教の発展史によって、峨眉山に豊かな文化遺産をもたらした。実践を重んじて仏教を高揚する普賢菩薩は、密宗では高い地位を占めており、吉祥と力のシンボルと信じられている。普賢菩薩を参拝し、安全護衛などの願い事が叶えてくれる。万年寺にある銅製の「象に乗る普賢菩薩」像は、峨眉山の宝物。阿弥陀仏銅像、三身仏銅像、報告寺にある脱紗七仏などは、珍しい仏教塑像である。それに、タラヨウに書かれた経典、華厳銅塔、聖積晩鐘、金頂銅牌、普賢金印鑑などは貴重な仏教文化財として重宝されている。

峨眉山一線天

楽山九曲桟道

楽山大仏の彫刻芸術

仏教の教義によれば、仏とは「覚」の意で、自覚、他覚と覚行円満の意も含めるという。それで、仏像は傑出した外形を持たなければならない。仏典の32相80種の規定と『造像量度経』の要求によって、仏像の頭、顔、鼻、口、目、耳、手、足などの外形は、凡人と違う特徴を備えなければならないと記している。楽山の大仏は、それに基づいて開鑿したのだ。

仏像の楕円形の頭ときれいな顔には、男性の威厳さと女性の優しさが融合され、慈悲深さと衆生をあまねく済度する信念を現している。その逞しい肩、突き出た胸、豊満で長い両腕は、極まりない力を見せている。大仏の頭に大きい髷状のこぶが生えており、普通の人間に有り得ないものだ。それは、阿弥陀仏の偉大さを体現し、仏様の極まりない仏法を象徴している。目的は、この並ならぬ外観によって、仏教の教義を具象化させ、人々に崇拝させる偶像を樹立することにある。

九曲桟道

楽山大仏の右側の岩壁には、173階の桟道が開鑿された。大仏参拝の山道に近い岩壁には、万を数える仏龕が刻まれている。これらの仏龕は、千年以上の風雨に晒されても、依然として『西文極楽図』など90ヵ所を完全状態に保存している。うち、『浄土変』、『三仏龕』などの芸術造旨が最も高い。生き生きと彫塑された仏像は、端正で慈愛溢れる菩薩、逞しく威厳な力士、体型淑やかな供養人などは、盛唐時期において中国造型芸術の高い水準を如実に反映した。

凌雲寺

楽山大仏が位置する凌雲山は、唐宋時期以降、名高い風致区であった。山は9つの頂を持つため、九峰山と呼ばれる。山には、赤色の峰が聳え、竹林がうっそうと生茂る。山の麓を流れる岷江には、舟が点在しており、果てしない遠い空まで延びている。遠くに聳える緑豊かな峨眉山は、雲に棚引かれながら延々とが連なり、美しい山水画の絵巻に織り成して

峨眉山でとれた生薬

峨眉山の竹葉青緑茶

峨眉山軽食のかずかず

いる。仏教が最も隆盛する隋唐時期(581～907)に、凌雲山は寺院が数多く建てられ、線香が盛んに焚かれ、参詣者で賑わった。現在は、凌雲寺しか残らない。

海通洞

貴州出身の海通法師は、凌雲山で寺を建て伝法した。古代、凌雲山の麓で合流する3本の川は、流れが急で、船の難破事故が頻繁に起こされていた。洪水にもたらした災難を毎年に見ていた海通法師は、川に臨んで大仏を開鑿して、水難を解消し、波涛を静まる願いを立てた。行脚僧になった法師は、各処を托鉢して回した。とうとう資金を募集して仏像開鑿の工事を始まった。水難を取り除き、衆生を済度する海通法師を偲ぶために、人々は、大仏開鑿の時、法師が修業していた洞窟を「海師洞」と命名し、さらに海通法師及び大仏造営の功労を記した『凌雲山海師洞記』を洞窟外に刻んだ。洞窟に、高さ2mの海通法師坐像を新しく彫塑した。

隠形睡仏

烏尤山と凌雲山は、とうとうとした川辺に聳えたっている。1990年に、焼き付けた写真を見る1人の広東観光客は、突然に二つの山が、巨大な睡眠中の仏様の形に似ると発見した。消息を聞いた人々は、ぞくぞくと楽山埠頭に、東の山を眺めてきた。一体の安らぎに眠る仏の形は、山として横たわれている。烏尤山を頭、凌雲山を体にした臥仏は、眉と目もはっきり見え、極めて巧な構造を成している。楽山大仏はちょうど臥仏の心臓のところにある。

地方料理

峨眉山と楽山は景色が美しい他、仏教的伝承も由緒深い。美味しい四川料理と地元の軽食は、観光客に忘れがたい印象を残す。仏教縁の地元清真料理は、特に名高い。

伝統料理：東坡ニク、茹でチキン、鶏肉の辛子和え、フライドチキン、手羽と蒟蒻煮込み、蒸しすっぽん、東坡イカなど。

新品料理：フライドハト、蒟蒻とチキンの煮込み

風味軽食：峨眉菓子、煮込むアヒル、味付け豆腐、シュンマイ、フライド魚、ショウガアヒル、細いラーメン、ダンコなど。

観光ショッピング

茶：峨眉山の中部は、名高い緑茶「竹葉青」と「峨芯」の出産地。山道の両側及び峨眉市内には、茶の小売店がある。

レストラン

名称	住所	電話番号(833)
楽山乃唐酒家	龍游路11棟3号	2449299
楽山五和酒家	市中区南安路中段	2447966
市中区和峰酒楼	市中区龍游93号	2444982
楽山山夢楼餐庁	市中区仏光湖内	2350222
峨眉山報国寺素餐館	峨眉山報国寺	5521178
峨眉山万年寺素餐館	峨眉山万年寺	5521759
紅星ファーストフード	峨眉山市観光バス中心	5523397

娯楽場所

名称	住所	電話番号(833)
峨眉山スキー場	峨眉山風景区内	5528226
峨眉山靈秀苑	峨眉山報国寺	5592785
仏光康楽城	峨眉山環城路東段環状交差	5536541
峨眉山天頤温泉郷都	峨眉山市峨秀湖	5590666

珍しい峨眉山仏蘭

峨眉山ザル

峨眉山の担ぎカゴ

生薬：景勝区には、生薬の売場が設けている。生薬の種類は多く、専門知識がない観光客に不向き。

蒟蒻：昔僧侶たちの常備食品だった。純粋な天然食品。景勝区内の土産売店で干し蒟蒻が売られている。

アクセス

飛行機で成都双流空港まで飛び、そこでシャトルバスに乗換え、国道で2時間走ると、150キロ離れる楽山市に着く。各旅行社は峨眉山行きのバスを運営している。

汽車に乗る観光客は、楽山駅や峨眉山駅まで乗れる。楽山市は峨眉山に31キロ離れる。楽山市から峨眉山まで、高速道路を走るバスは10分間置きに発車する。峨眉山駅は、峨眉山風致区大門(報国寺)にわずか10キロしか離れない。

タクシーの初乗り値段は7元で、毎キロ0.7元加算される。

ショッピング場所

名称	住所	電話番号(833)
峨眉山観光商品展示販売中心	峨眉山市峨山鎮楊崗	5590506
峨参堂大薬房	峨眉山市勝利鎮	5470166
峨眉山仏山中薬販売店	峨眉山市綏山鎮仏光南路	5531529
峨眉山竹葉青茶葉公司展示販売店	峨眉山市綏山鎮符汶村8組	5537367

観光ホテル

名称	クラス	住所	電話番号(833)
紅珠山賓館	★★★★	峨眉山市報国寺	5525888
楽山嘉州賓館	★★★	楽山市市中区白塔街19号	2139888
楽山山湾賓館	★★★	楽山市市中区碧山路18号	2350888
金海棠大酒店	★★★	楽山市中区海棠路	2128888
峨眉山大酒店	★★★	峨眉山市報国寺	5526888
峨眉山鳳凰湖賓館	★★★	峨眉山市報国寺	5591555
紅珠山賓館(8号楼)	★★★	峨眉山市報国寺	5525888

旅行社

名称	住所	電話番号
峨眉山風景国際旅行社	峨眉山市名山路中段192号	833-5553066
楽山海峡国際旅行社	楽山市市中区東大街98号	833-2101388
楽山国際旅行社	楽山市区県街30号	833-2133621
四川海外旅游公司	成都市人民南路二段65号	28-86731087
成都海外旅游公司	成都市高昇橋東路6号	28-85108958
四川省中国旅行社	成都市一環路南三段15号	28-85562986
成都中国青年旅行社	成都市人民南路三段6号	28-85582515
四川省中国青年旅行社	成都市東城根中街19号	28-88693482

全国統一の特殊サービス電話

中国国際電話の頭番号:0086	強盗防犯:110	交通事故通報先:122
電話番号案内:114	国内長距離電話予約:113	国際電話予約:115
消防:119	救急センター:120	天気予報:12121

中国国家観光局（東京）

東京都港区虎ノ門2-5-2 エアチャイナビル8F
郵便番号：105-0001
電話：03-3591-8686
ファックス：03-3591-6886

中国国家観光局大阪事務所

大阪市浪速区湊町1-4-1OCAT ビル4F
郵便番号：556-0017
電話：06-6635-3280
ファックス：06-6635-3281

中華人民共和国国家観光局

アドレス：北京市建国門内大街甲9号
電話：0086-10-65201114
ファックス：0086-10-65122096
ホームページ：http://www.cnta.gov.cn

CHINA TOURISM

中國旅游

峨眉山と楽山大仏

中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION

ご覧いただきありがとうございます！